

昨年1年間は事情があつて油絵を描くことができず現在は再開しているものの今年から四谷の絵画研究所が週3回から週2回になってしまい、絵を描く機会が減ってしまつて残念である。生徒数の減少（常時4～5人）によるものかと思われる。ただ他の示現会と太平洋美術会の研究所を併用して不足を補うことにしている。いずれも生徒は少ない。若い頃はすし詰め状態でスペースがなくキャンバスの隙間から覗いて描く苦勞があつたのに隔世の思いである。絵画（油彩）人口は高齢化が進み、若者が減りどの美術公募団体も頭を悩ませている。一定の年齢以下には出品料を無料して若年層を取り込もうとするケースも多い。

さて絵について語ると2年前と今は技術的に大きな進歩は見られないが、以前より悩んでいる背景処理、構図の変化の取り方を一層意識して描いている。うまくいく時もあるが失敗することのほうが多い。最近ちょうど作品制作研究会（日展等展覧会前の美術団体幹部による制作指導）で指摘されたのがこの作品で指導者より縦の線が多い構図になっているのでそれをやわらげるため主題の縦のトランペットを斜めに配置するよう指導を受けた。さすがにプロの画家（示現会）！自分ではまったく気が付かなかつた点を指摘され、感心させられた。他にも指摘されたがこれが一番。納得のうえ手直しすることにした。あと2回作品研究会があるのでこれで最終ではないが掲載した。

ちなみにこの作品は2年前に駒込の示現会絵画研究所で制作したもので、中断してしまつていたものを自宅に持ち帰り再開したものでF100号サイズ。最初の写真はスマートフォン（iphone-8）で次の写真はiphone-14で撮影した。機種（値段）の進化により映りのあざやかさがまったく違いますねえ。でも色彩については映りがよくなつても実物の作品と写真では色味がかなり違つているので少し、とまどつている。もうちょっと再現性があつた方がいいのに。

コロナの影響が残つているので普段の年では研究会は作品を直接持ち込むところを写真か

USBメモリーで作品を送りそれをスクリーンに映し出して講評する方式になっています。
今時で合理的です。

作品（以下）



最初の絵 7月16日



手直し後 8月20日

追記

8月20日（日）の研究会

主題であるトランペットの質感をもっと写実的に描くこと。持ち方も
少し馴染まない。

背景のカーテンの白い線は弱めること。

と指導をうけた。